

政府開発援助についてのコメント： 「Aid in Africa doing more harm than good」 討論会

2008.5 堀内 伸介

昨年12月4日ニューヨークで上記の課題で公開討論会が開催されました。主催者はインテリジェンス・スクエアという英国のマスコミ二社が創立した広報団体です。講師は援助、国際関係等で活躍している研究者、実務家達です。「害が益より多い」側は、G. Ayittey アメリカ大学教授(ガーナ人)、W. Easterly NY 大学教授、元世銀チーフエコノミスト、D. Rieff ニュー・レパブリック編集長です。「益が害より多い」側は、C.P. Lucas AfricCare の代表(アフリカ系アメリカ人)、J. McArthur コロンビア大、元国連ミレニアム・プロジェクトの副局長、G. Smith 国家安全委員会アフリカ主任アドバイザーの横綱、大関級の論者ばかりです。

各講師が8分ほどの意見を述べた後、講師の間での質疑応答と議論があり、その後、聴衆からの質問、意見を求めました。また、討論会の開始に当たって、聴衆に上記の課題について、賛否の投票をしてもらい、閉会に当たって、司会者は議論をまとめるのではなく、聴衆に再び賛否の投票を求めました。その結果は次の通です。

	討論前	討論後
「害が多い」	24%	41%
「益が多い」	34%	51%
「分からない」	42%	8%

討論会は2時間近くであり、6人の講師の論点、質疑応答を要約して、ご報告いたします。ビデオからの聞き取りです。また、引用された数字、事実関係などは、世銀などの統計や小生の理解とは異なるところもありますが講師の述べたままです。(Google VideoでAid in Africaで検索すると、この討論会の模様を見る事が出来ます。14パーツに分かれています。)

「司会者」 アフリカでは一日2万人の子供が下痢止めの薬が無いために死亡していると報道されている。どこかで事故、災害、紛争等で2万人が死亡したとすれば全世界のマスコミや政府、国際機関が大騒ぎするが、アフリカの子供の死亡は騒がれてはいない。僅かなコストで教育、保健医療の改善が可能である。援助はこの分野で重要な貢献をしている、と評価されている。しかし、多くのアフリカ諸国では、援助を含めた国の資金が政治指導者とその取り巻きによって私有化され、独裁的な政権を永らえている。エネルギーのある民間企業も成長することができない。援助は大きくアフリカ社会を変える障害となっているとも言われている。この討論は援助を止めるか否か、役に立っているか、否かの議論ではない。有益な援助、無駄な援助があることは皆が知っている。どちらが多いか、の議論である。

「害が益より多い」派

「Rieff」：有用な援助プロジェクトがあることを認めるにやぶさかでないが、援助議論が歴史的、道徳的に扱われ政治的な側面が回避されていることに懸念を持つ。援助の実施において、ベストプラクティスが追求され、色々な条件が付けられる。外部の人間が援助のルールを設定している。アフリカに限らず、人々は外部の人間によって救済されることはないし、体制が改革されることもあ

りえない。短期的な緊急援助はべつである。外国政府、国際機関、外国の組織が、アフリカ人の問題を改善する方策を知ってと考えているのは、かつての植民地主義、宣教師と同じである。与える側と受ける側の力関係が同等でないことを認識すべきである。

「Easterly」：二つの悲劇が観察される。第一の悲劇は、12セントのマラリア薬がなく毎年1-3百万人の子供が死亡していることである。第二の悲劇は、過去45年間に先進国は6000億ドルの援助をアフリカに供与しているにもかかわらずアフリカ人の生活水準は全く向上していない。これは年間GDPの20%にあたる。援助がそれを一番必要としている人々には届いていないことである。今でも3分の2の援助が、汚れた独裁者に渡り、その政権を維持している。統計的にも援助が民主化や改革を阻害している事が証明されている。年一人30ドルの援助がアフリカ人に供与されているにもかかわらず、12セントの薬が子供たちに届けられない援助システムは、崩壊していると言わざるを得ないし、誰もその責任を取ろうとせず、援助がアフリカの状況を悪くしている。援助国は援助額を、あたかも額と開発が直接関係があるように提示しているが、援助の額が問題ではない。麻疹が減少したというが、数セントの予防注射が今まで出来なかったことこそ問題にすべきである。

「Ayittey」：人道的援助と開発援助を区別したい。問題は後者である。6000億ドルの援助の成果は何処にあるのか。壊れたインフラの残骸ばかりである。援助の多くはソフトな借款であり、供与国のヒモ付である。米国援助の80%は米国内で支出されている。フランスの援助はもっと悪い。中国は物だけでなく労働者まで連れてくる。米国援助は経済的、政治的改革を促進するためと説明されているが、米国援助でそのような改革の進んだ国を挙げて欲しい。カナダは40年間のアフリカ援助が失敗であることを報告している。先日カナダ上院の公聴会で証言したところであるが、アフリカに援助するならば、アフリカ人に何が欲しいかを先ず尋ねてもらいたい。援助国は答えを知っていると思っているが、間違っている。アフリカのエリートに聞いてもムダである。エリートは変化を求めている。アフリカ人民が一番望んでいるのは、改革、改革、改革である。政治、経済、官僚機構の改革である。自由なマスコミ、独立した司法、法による統治があればアフリカは発展する。アフリカに資金は要らない。援助は昨年約250億ドルであるが、汚職による損失は1400億ドル、800億ドルの資本逃避、150億ドルの兵器の輸入、200億ドルの食糧輸入の数字からも分かるようにアフリカには資本がある。適切に使えば援助は必要が無い。

「益が害より多い」派

「Smith」：援助は多様な側面を持っているが、多くの生命と尊厳の問題として捉えられるべきである。この点から、援助を政治的、外交的な配慮を超える道徳的、米国の安全の課題として扱うべきである。かつては独裁者の手に援助が落ちたことは事実であるが、現在は透明性も確保され、アフリカにおける援助の責任者には多くのアフリカ人が任命されているし、援助の大部分は政府に供与されるのではなく、市民団体に直接供与されている。エチオピアのマイクロ・ファイナンスや商品市場の設立は援助の成果である。アフリカの開発は米国の重要な関心事項であり、援助以外に効果的な手段があると言うのか。また、援助のみが開発の責任を取るものではない。交易条件の変化、紛争、冷戦等アフリカの開発にマイナスとなった事柄は多い。援助は手段の一つに過ぎない。援助とアフリカの停滞は関連していない。

「McArthur」：貧弱な統治がアフリカの問題の唯一の説明ではない。統治指標でアフリカ諸国よりも悪いアジアの国が、アフリカ諸国よりも高い成長を記録している。援助が貧弱な統治をもたらしていると言うのは、単純すぎる。新しい政治指導者が素晴らしい成績を上げ始めている。6000億ドルの援助を計算するとほぼ年一人当たり28ドルとなる。マーシャルプランでは一人当たり85ドルを供与している。米国はアフリカに480億ドルを援助している、年一人当たり2ドル50セントである。援助が役に立ってないと言うが、28ドル、2ドル50セントで何が買えるのか。アフリカでは天然痘がなくなった。最近の5年間で麻疹が91%も減少した。アフリカの小学校の入学率が20%も増加した。1.3百万人がAIDSの治療薬をもらっている。マラウイでは肥料と種の供与によって、5年で収穫が倍増した例もある。

「Lukas」：6000億ドルが供与されたが、米国がイラクやアフガニスタンで使っている軍事費に比較すれば大した額ではない。米国の援助の大半はエジプトとイスラエルに与えられている。モブツが援助を私物化したが、当時は開発のために援助が供与されたのではない。共産主義への対抗と希少金属を手に入れるための援助であったから、汚職を問題にしなかった。今は異なる。汚れた政治家もいるが、きれいな政治家も多い。マンデラ、チサノ、マリの大統領、リベリアの女性大統領などをわれわれは支援している。現在の援助はNGOに供与され、アフリカ政府の手に触れることは少なくなった。援助でオンコセルカ症がなくなり、数100万エーカーの土地が耕作されるようになった。われわれはアフリカを開発する術を知っている。アフリカ人に主導権を持たせ、支援を持続しなければならない。

議論の主な点はカバーしたと思いますが、皆さんはどちらに投票しますか。

以下、小生のコメントです。

- 1) このような公開討論会が開催されることは素晴らしいと思います。わが国では体制批判は、無視されます。援助に対する米国民(一部の知識層だけであることは確かですが、)の意識の高さも反映していると重います。
- 2) 効果を挙げている援助プロジェクトがあることについて全員が理解していますが、援助が一番必要としている人々に届いていないことについても合意があると思います。出席者の全員が現在の援助システムが効果的でない、改革が必要であるとの理解です。数セントの麻疹の予防注射が、行き渡るのに40年も掛かっているならば、成功と言うのか失敗と言うのか、どちらでしょう。
- 3) 援助の大部分が汚職、独裁者の権力保持に使われている、との認識に大きな相違があると思います。最近ではNGO、市民団体に援助が直接供与されているから、政府による浪費は少ないとの立場がありますが、先進国のNGOはそれぞれ優先分野を持っており、アフリカの草の根の意思ではなく、先進国のNGOに支配されている、との指摘もあります。
- 4) マーシャル・プランは一人当たり85ドルを供与したとの数字は初めて知りましたが、同プランは1948年から51年までの足掛け4年間であり、45年間のアフリカ援助とは比較は出来ません。アフリカ援助は90年代に増えてGDPの10%にもなりました。一人28ドルと言う数字は大きいと思います。ちなみに最近の世銀の統計によると、2006年のサブサハラ・アフリカは一人当たり52ドル、南アジアは4ドルです。

